



卯歳懸銭、但六月分

右、中嶋郷懸銭、前々高辻百九十四文也、来七月晦日を切而、必々可致皆済、相定分銭候間、不及催促、急度可致皆済、此上致無沙汰付者、奉行人濟々可被指越間、自地下中、くりやもたひ可致之者也、仍如件

立物之事

- 一米ハ 百文ニ一斗二升目 俵別三斗六升俵
- 一麦ハ 百文三三斗五升目 俵別三斗五升俵
- 一黄金ハ 一両壹貫五百文金

以上三色

此外精銭一円於夏懸銭被停止也、

丁亥

(武榮「朱印」)

六月廿四日

中嶋郷 小代官  
百姓中